

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	沖縄県
-------	-----

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="radio"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="radio"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="radio"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②-1 モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
沖縄県	特別支援学校	知的障害	沖縄高等特別支援学校 (おきなわこうとうとくべつしえんがっこう)
沖縄県	高等学校	全日制	南風原高等学校 (はえばるこうとうがっこう)

②-2 モデル協力校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
沖縄県	特別支援学校	知的障害	名護特別支援学校 (なごとくべつしえんがっこう)
沖縄県	特別支援学校	知的障害	美咲特別支援学校 (みさきとくべつしえんがっこう)
沖縄県	特別支援学校	知的障害	美咲特別支援学校はなさき分校 (みさきとくべつしえんがっこうはなさきぶんこう)
沖縄県	特別支援学校	知的障害	大平特別支援学校 (おおひらとくべつしえんがっこう)
沖縄県	特別支援学校	知的障害	島尻特別支援学校 (しまじりとくべつしえんがっこう)
沖縄県	特別支援学校	知的障害	西崎特別支援学校 (にしざきとくべつしえんがっこう)
沖縄県	特別支援学校	知的障害	やえせ高等支援学校 (やえせこうとうしえんがっこう)
沖縄県	高等学校	全日制	中部農林高等学校 (ちゅうぶのうりんこうとうがっこう)
沖縄県	高等学校	全日制	陽明高等学校 (ようめいこうとうがっこう)
沖縄県	高等学校	全日制	南部商業高等学校 (なんぶしょうぎょうこうとうがっこう)

## 2 研究課題

沖縄高等特別支援学校・南風原高等学校におけるキャリア教育・就労支援の取組の充実とモデル協力校への普及及びノウハウの活用について

## 3 研究の概要

### (1) 就職支援コーディネーターの活用

就職支援コーディネーター業務を外部に委託し、企業や関係機関等との連携を図るとともに、職場開拓や定着支援を行うことで、沖縄高等特別支援学校における軽度知的障害のある生徒のキャリア教育・就職支援を推進する。また、そのノウハウを協力校（知的特別支援学校高等部）で活用することで就職を希望する生徒向けのキャリア教育・就労支援に取組の充実を図る。

南風原高等学校においては、支援を必要とする生徒のインターンシップなど、キャリア教育・就職支援を推進するため、沖縄高等特別支援学校南風原分教室との連携強化を図った。

### (2) 就職支援ネットワーク協議会の開催

モデル研究校、モデル協力校におけるキャリア教育の充実及び就労支援に関する協議を行うため、モデル校担当者及び労働関係機関、企業関係者、保護者代表等が一堂に会する「就職支援ネットワーク協議会」を4回開催した。同協議会では、各モデル校における取組の状況等の報告を受け、課題の整理と改善に向けた関係機関等の連携のあり方やネットワークを活かした具体的な取組について協議を行った。

### (3) 沖縄県特別支援学校技能検定の実施

特別支援学校の生徒が持っている就労に関する能力等を適正に評価し級位を認定することにより、社会・企業関係者等へのアピール、生徒の意欲を喚起することなどを目的とする「沖縄県特別支援学校技能検定」を2回（11月、2月）実施した。

## 4 研究の成果

就職支援コーディネーター業務を障害特性の理解や障害者雇用に関する諸制度等に関する高い専門性を有する団体に外部委託したことにより、職場・実習先開拓、関係機関との連携、生徒・保護者向けの講話や職員向けの研修の実施など、各モデル校における取組の充実が図られた。

「就職支援ネットワーク協議会」において、具体的な好事例や困難事例の報告等をふまえた卒業後の定着支援のあり方について協議し、各学校や関係機関の役割や連携方法、県が作成したサポートノートの活用など、具体的な対応策等につて情報を共有することができた。

それらの成果として、沖縄県における特別支援学校高等部平成27年度卒業生の一般就労の人数は81名（過去最多）に増加した。平成28年度卒業生についてもさらなる増加が期待できる。

また、「沖縄県特別支援学校技能検定」実施に向け、運営会議を6回開催し、外部専門家等の協力を得ながら、指導用資料（仕様書、工程表、評価表）や指導用動画を作成するとともに各モデル校における指導者研修会を計16回実施し、指導の充実を図った。2回の検定では、メンテナンス部門（テーブルふき、自在ほうき、モップ）、接客部門（喫茶サービス）に各モデル校高等部の生徒が受検し、沖縄県教育委員会が1級から4級と認定された140名に認定証を交付した。

受検生徒向けに実施したアンケートでは「全部1級取れるようになりたい。」「来年も受検したい」などの意欲的な感想が多く、各モデル校における指導段階から生徒の目標となり、就業に向けた意欲や態度に関する指導の充実が図られた。

## 5 課題と今後の方策

### 課題(1)

平成29年度から沖縄高等特別支援学校の3分教室が高等学校併設型特別支援学校へと移行することをふまえた併設型特別支援学校におけるキャリア教育・就労支援充実のための体制づくり

#### 【対応策】

本事業においてモデル校におけるキャリア教育・就労支援充実で一定の成果を得た就職支援コーディネーターのノウハウの活用する。

高等学校併設型特別支援学校4校におけるキャリア教育・就労支援充実や学校間及び関係機関との連携の強化を図るため、就労支援コーディネーター業務を外部に委託するとともに、就職支援ネットワーク協議会を開催し、高等学校併設型特別支援学校における課題やその解決方法等について協議する。

### 課題(2)

高等学校に在籍する、発達障害を含む障害のある生徒への支援体制づくり

#### 【対応策】

特別支援学校におけるキャリア教育・就労支援のノウハウを活かす。

インターンシップ実施時の支援や早期からの進路相談のほか、就職後を想定した個別移行支援計画の作成、活用を図る。その成果を他の高等学校に普及する。

### 課題(3)

「沖縄県特別支援学校技能検定」の実施方法や今後のあり方について

#### 【対応策】

技能検定運営会議を開催し、知的障害以外の障害種の生徒が受検できる検定種目の拡充や実施方法、各学校における指導の充実、指導用資料（仕様書、工程表、評価表）の改訂等について検討する。